

研究課題名	尿路上皮癌の予後予測因子、治療効果予測因子の調査研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科腎泌尿器科学 教授 日向 信之
研究期間	(倫理委員会承認後) ~ 2035年 3月
対象者	<p>これまで(2001年1月以降)、またはこれから(2031年3月まで)、広島大学病院泌尿器科で尿路上皮癌(膀胱癌)およびその他の泌尿器癌(前立腺、精巣、腎、腎盂、尿管)に対する治療を受けられた、または受けられる方々。</p>
意義・目的	<p>尿路上皮癌の中で最も多い膀胱癌は、早期の癌であっても再発率が非常に高い癌として知られています。また、手術で取り切れないような進行した癌に対する抗癌剤治療は、よく効く患者さんがいる一方で全く効果がない患者さんもおられます。近年、膀胱癌の遺伝子の解析がすすんだ結果、遺伝子の違いで抗癌剤の効きやすいタイプとそうでないタイプが存在する事が明らかになってきました。さらに、もともと持っている特定の病気(糖尿病や腎臓の機能障害など)の有無も癌の再発や進行に関わっているのではないかと、いう事も分かってきました。</p> <p>今回我々は、おおきく以下の3つについて調べることを目的として、この研究を企画しました。</p> <p>① 上記のタイプが膀胱癌に対する抗癌剤以外の治療の効果にも影響を与えているのか？</p> <p>② 上記のタイプが、膀胱癌の再発や進行に関わるとされる特定の病気と関係があるのか、もしくはほかに関係する病気がなにかあるのか？</p> <p>③ これらのタイプの違いや、特定の病気が膀胱癌自体の見え方や、顕微鏡レベルでの顔つき(悪性度)等にどのような影響を及ぼすのか？</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>また、治療目的に手術で摘出したのち、保存してある組織を使い免疫染色を行います。</p> <p>カルテから使用する内容は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身長、体重、年齢、性別、原爆手帳の有無、既往歴、家族歴、飲酒・喫煙歴、職業歴 ・血液検査 ・尿検査 ・膀胱癌の診断時の臨床病期(リンパ節や内臓転移があれば、その個数や部位も)など(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	<p>広島市立北部医療センター安佐市民病院</p> <p>国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター</p> <p>JA 広島総合病院</p> <p>県立広島病院</p> <p>マツダ病院</p> <p>市立三次中央病院</p> <p>国立病院機構東広島医療センター</p> <p>JA 尾道総合病院</p>

国立病院機構福山医療センター
国立病院機構広島西医療センター
中国労災病院
松山赤十字病院
中津第一病院

(本学に情報を集め解析します。)

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5242

広島大学大学院 医系科学研究科 腎泌尿器科学 職名 講師 氏名 林 哲太郎

研究機関：広島大学